

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和8年度4～5月号

○ 4月の概要

- (1) 令和8年度4月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,461億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.7%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,068円（伸び率+4.8%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が2,024億円（伸び率+1.1%）、薬剤料が5,422億円（伸び率+4.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が906億円（伸び率▲9.4%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,526円（伸び率+3.7%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.86種類（伸び率+0.6%）、29.4日（伸び率+3.9%）、66円（伸び率▲0.8%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料4,095億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+105億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の773億円（伸び幅+2億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+63億円（総額625億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,095 億円 (+105 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(773 億円)	42 腫瘍用薬 (625 億円)	21 循環器官用薬 (605 億円)
0 歳以上 5 歳未満	18.2 億円 (▲0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (4.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.5 億円)	61 抗生物質製剤 (2.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	102.7 億円 (+3.0 億円)	44 アレルギー用薬 (33.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (30.8 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(9.9 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,562 億円 (+56 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(293 億円)	11 中枢神経系用薬 (290 億円)	42 腫瘍用薬 (210 億円)
65 歳以上 75 歳未満	793 億円 (▲7 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(176 億円)	42 腫瘍用薬 (158 億円)	21 循環器官用薬 (128 億円)
75 歳以上	1,620 億円 (+55 億円)	21 循環器官用薬 (296 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(293 億円)	42 腫瘍用薬 (252 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,068円（伸び率+4.8%）で、最も高かったのは高知県（12,165円（伸び率+7.0%））、最も低かったのは佐賀県（8,850円（伸び率+5.9%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+11.8%）、最も低かったのは北海道（伸び率+2.9%）であった。（→P.31～32）

《後発医薬品の使用状況について》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	92.2 %	+1.0 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	76.3 %	▲1.5 %
後発品調剤率	77.2 %	▲4.0 %

注 1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕) で算出。

注 2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料〕) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲9.4 %	▲2.8 % (75 歳以上 80 歳未満)	▲15.3 % (80 歳以上 85 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	76.3 %	86.7 % (100 歳以上)	71.1 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	92.2 %	95.0 % (0 歳以上 5 歳未満)	91.2 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	749 億円 (▲99 億円)	21 循環器官用薬 (202 億円)	11 中枢神経系用薬 (131 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(87 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.4 億円 (▲2.0 億円)	44 アレルギー用薬 (2.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	16.5 億円 (▲3.4 億円)	44 アレルギー用薬 (10.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	264 億円 (▲33 億円)	11 中枢神経系用薬 (59 億円)	21 循環器官用薬 (58 億円)	44 アレルギー用薬 (32 億円)
65 歳以上 75 歳未満	144 億円 (▲23 億円)	21 循環器官用薬 (48 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(21 億円)	11 中枢神経系用薬 (19 億円)
75 歳以上	318 億円 (▲37 億円)	21 循環器官用薬 (96 億円)	11 中枢神経系用薬 (51 億円)	23 消化器官用薬 (40 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,223 円	1,529 円(北海道)	1,047 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲8.4%	▲5.2 % (香川県)	▲10.8 % (北海道)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	92.2 %	94.6 % (沖縄県)	89.9 % (徳島県)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	76.3 %	81.3 % (島根県)	70.5 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	77.2 %	80.2 % (秋田県)	74.6 % (東京都)

○ 5月の概要

- (1) 令和8年度5月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,860億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲0.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,800円（伸び率+3.5%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,894億円（伸び率▲2.4%）、薬剤料が4,952億円（伸び率▲0.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が814億円（伸び率▲12.7%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,319円（伸び率+2.1%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.82種類（伸び率+0.1%）、28.5日（伸び率+3.5%）、66円（伸び率▲1.4%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料3,723億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲85億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の710億円（伸び幅▲35億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+21億円（総額566億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,723 億円 (▲85 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(710 億円)	42 腫瘍用薬 (566 億円)	21 循環器官用薬 (546 億円)
0 歳以上 5 歳未満	16.5 億円 (▲1.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.9 億円)	61 抗生物質製剤 (2.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	94.6 億円 (▲1.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (29.2 億円)	44 アレルギー用薬 (29.0 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(9.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,445 億円 (▲1 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(277 億円)	11 中枢神経系用薬 (274 億円)	42 腫瘍用薬 (194 億円)
65 歳以上 75 歳未満	708 億円 (▲51 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(157 億円)	42 腫瘍用薬 (141 億円)	21 循環器官用薬 (116 億円)
75 歳以上	1,459 億円 (▲30 億円)	21 循環器官用薬 (266 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(265 億円)	42 腫瘍用薬 (227 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,800円（伸び率+3.5%）で、最も高かったのは高知県（11,603円（伸び率+4.1%））、最も低かったのは佐賀県（8,589円（伸び率+3.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは鹿児島県（伸び率+7.0%）、最も低かったのは北海道（伸び率+1.8%）であった。（→P.31～32）

《後発医薬品の使用状況について》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	92.3 %	+1.1 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	76.5 %	▲1.1 %
後発品調剤率	76.4 %	▲4.2 %

注 1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕) で算出。

注 2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料〕) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲12.7 %	▲5.9 % (25 歳以上 30 歳未満)	▲19.2 % (80 歳以上 85 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	76.5 %	86.3 % (100 歳以上)	69.4 % (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	92.3 %	95.2 % (0 歳以上 5 歳未満)	91.3 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	677 億円 (▲122 億円)	21 循環器官用薬 (183 億円)	11 中枢神経系用薬 (121 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(80 億円)
0 歳以上 5 歳未満	5.5 億円 (▲2.4 億円)	44 アレルギー用薬 (2.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	13.6 億円 (▲3.9 億円)	44 アレルギー用薬 (8.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	242 億円 (▲38 億円)	11 中枢神経系用薬 (56 億円)	21 循環器官用薬 (54 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(29 億円)
65 歳以上 75 歳未満	130 億円 (▲28 億円)	21 循環器官用薬 (43 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(19 億円)	11 中枢神経系用薬 (17 億円)
75 歳以上	287 億円 (▲50 億円)	21 循環器官用薬 (86 億円)	11 中枢神経系用薬 (46 億円)	23 消化器官用薬 (36 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,163 円	1,477 円(北海道)	1,005 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲8.8%	▲6.0 %(香川県)	▲12.2 %(島根県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	92.3 %	94.7 %(沖縄県)	90.0 %(徳島県)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	76.5 %	80.6 %(島根県)	70.8 %(徳島県)
後発医薬品調剤率	76.4 %	79.6 %(秋田県)	73.8 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和8年度4月及び5月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約100%である。